

令和8年度 加茂名中学校 学校評価計画

	重点課題	重点目標	活動計画	評価指標
学校経営	① 有意義な学校生活が送れるよう、生徒の主体的な活動を充実させるとともに、生徒一人一人の自尊感情、自己有用感を高めていきたい。	① 笑顔があふれ、温かい言葉が交わされる学校づくりをめざす。 ① 生徒会活動の活性化やKCLGの取組の更なる充実をめざす。	① 生徒一人一人の個性を尊重し、積極的に声かけ(賞賛、感謝、激励等)を行う。 ① ポジティブな行動支援(PBS)を意識して、望ましい行動を褒める。	① 「学校生活が楽しいと感じる」生徒:90%以上 ① 「子どもは学校へ行くことを楽しみにしている」保護者:90%以上
	② 学校教育(学習指導・進路指導・生徒指導・人権教育・安全教育等々)に対する保護者の理解や支援がより一層必要である。	② 全ての教育活動の充実を図りながら、家庭や地域に信頼される学校づくりをめざす。	② 担任等による家庭連絡をはじめ、各種便りやメール、ホームページ等を有効に活用し、情報交換、情報発信に努める。	② 「学校は積極的に情報発信に努めていると感じる」保護者:80%以上 ② 「学校は子どもの様子等について、家庭との連携がとれていると感じる」保護者:80%以上
	③ 学校教育の充実を図るための基盤として、教職員がしっかりと教育に向き合うことができる職場環境の一層の改善が必要である。	③ 教職員としての誇りと自覚を持って教育活動に取り組むことができる、働きやすく働きがいのある職場環境を構築する。	③ 業務の適正化と質的転換による働き方改革を推進する。 ③ 風通しのよい職場づくりと教職員間の協力体制の整備に努める。	③ 「働きやすく働きがいがある職場であると感じる」教職員:90%以上
学習指導	① 問題解決のための活動に、忍耐力をもって取り組み、主体的に学習することが苦手な生徒がいる。	① ユニバーサルデザインの視点に立った教室環境や授業づくりに努める。 ① ICTを効果的に活用した分かりやすい授業づくりに努める。	① 定期的に授業研究会や授業研修ウィークを実施することを通して授業力の向上を図る。 ② ICT活用についての研修の機会を設けることで、授業力の向上を図る。	① 「授業に集中して一生懸命取り組んでいる」生徒:80%以上 ① 「先生はわかりやすい授業を行っている」生徒:80%以上 ① 「授業がわかりやすいと子どもが言っている」保護者:70%以上 ① 「生徒は授業に意欲的に取り組んでいる」教職員:80%以上
	② 家庭学習の習慣が定着しておらず、基礎学力の定着が不十分な生徒が多い。	② メディアに触れる時間を減らすことで、家庭学習時間を増やすことを目指す。 ② 家庭学習の質を向上させる。	② ノーメディアを継続的に実施し、定着させることで、家庭学習に使える時間を増やす。 ② 学期に一回程度、家庭学習強化週間を設けることで、家庭学習の質の向上を図る。	② 「毎日家庭学習ができている」生徒:80%以上 ② 「家庭学習の習慣がついている」保護者:80%以上
人権教育	① 人権教育に対する教職員の姿勢に温度差がある。	① 全教育活動の基盤に人権教育を据え、その推進に努める。	① 研修や資料の共有を行うことで、教職員の人権教育に対する意識を高める。	① 「人権教育への理解が深まったと感じる」教職員:80%以上
	② 言語で自己表現をすることが苦手であり、円滑な人間関係を築く力が弱い生徒が存在する。 ② 自己肯定感が低く、自分や相手を軽視するような態度や言動をとってしまう生徒が存在する。	② 語彙を増やして言語感覚を磨き、互いに認め合える仲間づくりを通して、自尊感情を高める。 ② いじめや差別を許さない強い意志と実践力を備えた生徒の育成に努める。	② 人権委員の活動を活発化させるとともに、班活動や学校行事等、級友の力を合わせる機会を積極的に設定する。 ② 生徒の言動や変化を学年だけでなく学校全体で共有することで、いじめ問題等の早期発見・早期対応に努める。	② 「先生は一人一人を大切にした教育(指導)をしていると感じる」生徒:80%以上 ② 「自分や周りの人の人権を大切にできている」生徒:80%以上 ② 「学校は人権を大切にした教育を実践できている」保護者:80%以上
道徳教育	① 周囲の気持ちを考えず、自分本位の考えで身勝手な行動を繰り返し、挨拶や言葉遣いを軽んじる生徒が存在する。	① 自分の内面を見つめ、人間としてより良く生きようとする態度を育てる。 ① 命の尊さを理解し、かけがえない自他の生命を尊重する心を養う。	① 生徒の実態把握に努め、実態に合わせた価値項目の授業を計画的に実践する。 ① 教科書の活用とともに、生徒の心に響く教材等を探索する。	① 「道徳の授業が大切だと感じている」生徒:80%以上 ① 「生徒に道徳性(モラル)の向上を意識した指導(声かけ)を心がけている」教職員:90%以上
特別支援教育	① 生徒一人一人が学ぶ楽しさを享受できるよう、授業の改善に努めなければならない。	① ユニバーサルデザインの視点に立った教室内の環境や授業づくりに努め、わかりやすい授業を推進する。	① 教員間及び生徒や保護者との情報交換を通して、より学習が深まるよう配慮する。	① 「生徒の特性を理解した指導(声かけ)の工夫ができている」教職員:90%以上 ① 「ユニバーサルデザインの視点に立った授業を心がけている」教職員:90%以上
	② 特別支援教育に関して、教職員の理解をよりいっそう深めたい。	② 特別支援教育に関する学びの場に積極的に参加する。	② 研修した内容や参考になる取組等を、速やかに教職員に伝達し、実践に生かす。	② 「特別支援教育への理解が深まったと感じる」教職員:90%以上
キャリア教育	① 生徒自身の将来や地域の将来について考え、行動する力が弱い。	① 社会における自らの役割・意義や将来の生き方について考え、地域との関わりの中で働くことへ理解と意欲を高め、自分の進路について主体的に考える生徒を育成する。	① 自他の良さに気づき、学校生活・社会生活に意欲的に取り組む教育活動を展開する。将来の生き方や働き方について具体的に考えさせる力をつけるために、体験活動と適切な指導助言を行う。	① 「自分の進路選択のための活動ができている」生徒:60%以上
	② 教職員と生徒の意識に差があり、生徒に「自分の夢や将来について考えた」という実感を持たせる機会を持たせる取り組みが必要である。	② 自己理解を深め、人とのつながりを大切に考え、地域社会の一員としての自覚を持ち、自分の役割を考えて将来の生き方について考える生徒を育成する。	② 総合的な学習の時間、各教科、課外活動のクロスカリキュラムを図り、地域と連携した教育活動を展開して、体験活動を通して自己の将来と関連付けた指導を行う。	② -1「将来に対する夢や希望をもつことができている」生徒:70%以上 ② -2「生徒に適切な進路選択ができるような指導(声かけ)を心がけている」教職員:90%以上

生徒指導	① 社会的な基本事項である「あいさつ」をできない生徒が40%ほど存在する。	① いつでもどこでも誰にでも挨拶ができる生徒を目指す。 ① 自己肯定感を高め、自分自身が社会的に認められる存在であるということを実感させることを目指す。	① 登下校時の声かけや、集会、学活を利用して繰り返し指導する。 ① 生徒会活動等で、あいさつへの呼びかけを行う。	① 「自分はあいさつができています」生徒:100% ① 「あいさつができるように、粘り強く指導した」教職員:100%
	② 人を不快にさせる言葉や傷つける言葉を頻繁に使う生徒が少なからず存在する。	② 温かい言葉を大切に、正しい言葉遣いが身に付くようにする。	② 生徒会活動等で、正しい言葉遣いができるようにするために生徒主体の運動を実施する。	② 「正しい言葉遣いができる」生徒:90%以上 ② 「意識して正しい言葉遣いを生徒に指導した」教職員:100%
	③ 継続して支援が必要な生徒、問題行動を繰り返す生徒が少なからず存在する。	③ 日々の実践を通して、生徒との信頼関係を構築するとともに、生活アンケートを活用し、生徒の気持ちの変化にいち早く気付くことに努める。	③ 生徒支援委員会で、支援や指導が必要な生徒に関する共通理解を図るとともに、教職員間の情報交換を密に行う。	③ 「困ったことや悩み事があれば、相談できる先生がいる」生徒:80%以上 ③ 「学校は生徒の問題行動に対して適切な指導をしている」保護者:80%以上 ③ 「生徒の相談に親身になって対応した」教職員:100%
保健指導	① 定期健康診断の二次検診受診率が低い。	① 定期健康診断の二次検診受診率の向上を目指す。	① 健診結果通知やほけんだよりで、受診の必要性を周知する。 ① PTC時に個々の定期健康診断結果を配付し、受診を促す。	① 二次検診受診率(検診結果通知の返却率)70%以上。
	② 健康に過ごそうとする意識が低く、生活習慣の乱れから体調不良を訴える生徒が多い。	② 生活リズムの改善と生活習慣病の予防に努める。 ② 規則正しい生活習慣に改善しようとする意欲の向上に努める。	② 栄養教諭と協力をして、肥満度の高い生徒へ個別指導を行う。 ② アンケート調査を実施し、生活習慣を改善するための取組や指導を行う。	② 自己評価で「私は、健康に過ごすために、生活リズムを整えるなど、心がけることができています」生徒が、75%以上。
生徒会活動	① 挨拶をする生徒が少ないため、生徒会が中心となり、積極的に挨拶運動を行う必要がある。	① 元気なあいさつができる「加茂名中学校生の集団づくり」をめざす。	① 生徒会執行部が中心となって、専門委員会や各部活動と連携して朝のあいさつ運動を校外で実施する。	① 「あいさつができています」生徒:80%以上 ① 「加茂名中生はあいさつができています」保護者:80%以上
	② 生徒会専門委員会の活動状況に差がある。	② 全生徒会専門委員会の各活動を活性化させる。 ② 各委員会視野を広げ幅広い活動を行っていき、各委員会ごとに所属している生徒全員が参加できる活動を計画する。	② 生徒会専門委員会で、具体的な目標や実践項目を決め、生徒会執行部の中でもその活動を振り返り、よりよい活動を目指していく。 ② 生徒会新聞やホワイトボードを通して、活動を周知し、月1回以上専門委員会での活動を行う。	② 「専門委員会の活動に意欲的に取り組んだ」生徒:70%以上
	③ 文化祭の自己表現活動において、3年生の参加がほとんどで、1・2年生の参加が少ない。	③ 文化祭で、全学年の生徒が積極的に自己表現活動に取り組み、表現の部に参加できるようにする。	③ 文化祭への参加を広く呼びかけ、生徒会執行部が中心となってその運営を行う。 ③ 全生徒で参加しやすいような取り組みを生徒会執行部で企画する。	③ 「文化祭の活動に意欲的に取り組んだ」生徒:75%以上
図書館教育	① 休日に図書室を利用する生徒数が全体的に少ない。	① 図書室の利用者数を増やすために、図書委員会活動を活性化し、昨年度よりも利用者数の増加をめざす。	① 学年の利用日は朝学活で知らせるなど図書委員が積極的に呼びかける。 ① 生徒が図書室を訪れるきっかけとなるようなイベントや活動を、図書委員が中心となって行う。	① 学年利用日に図書室を訪れた人数が、各学年30%以上。 ① 学級文庫・学年文庫・図書室のすべてを合わせて年間5冊以上読んだことがある生徒30%以上。
食育	① 毎日朝食を食べている生徒は85%以上だが、食事内容は50%が主食のみである。	① 朝食の役割を理解してもらう。 ① 基本的な生活習慣の定着を目指す。	① おたよりや掲示物を作成する。 ① 授業や給食の時間を通して食に関する指導を行う。	① 毎日、主食・主菜・副菜のそろった朝食を食べる生徒の割合65%以上。
	② 給食の献立内容にもよるが、残食率が高い傾向にある。	② 自分に必要な栄養や食事の量が分かる生徒を育てる。	② 給食委員会で全校生徒への呼びかけやポスターの作成を行う。	③ 給食を好き嫌いすることなく、残さず食べる生徒の割合75%以上。
安全教育	① 交通ルールやマナーの徹底が不十分である。	① 加害者にも被害者にもならないように、交通ルールやマナーの徹底を図る。	① 全教職員による校外安全指導を月1回実施するとともに、校門付近での登下校指導を毎日実施する。 ① 登下校時の状況について、学級活動や集会等で繰り返し啓発する。	① 「通学時にヘルメットを必ず着用している」生徒:100% ① 「交通ルールやマナーを守って登下校している」生徒:100%
	② 緊急事態下でも自助共助や安全の確保を十分に意識した行動ができなくてはならない。	② 自然災害等、緊急避難時に安全で適切な行動がとれるように指導する。	② 様々な状況を想定して、複数回、避難訓練を実施する。	② 「緊急事態時の避難方法を知っている」生徒:100%

環境教育	① 節電や節水に関する意識が低い生徒が多い。	① 将来にわたり、限られた資源を大切にすることを育てる。	① 節電や節水を意識できるよう、グラフを掲示するなどして広報する。	① 電気代や水道代を昨年度より削減する。 ① 「節電・節水・ゴミの分別を意識している」生徒:85%以上
	② 紙を資源ゴミとして再利用する意識が不十分である。	② 紙の再資源化を推進する。	② 教室等での資源ゴミ回収を呼びかけ、一人一人の意識を高める。	② 「ゴミの減量や紙の再資源化に積極的に取り組んでいる」教職員:85%以上
	③ 美しい学校環境を実現しようとする生徒の意欲の高まりをさらに伸ばす。	③ 生徒会活動や清掃活動を推進し、美しい学校環境づくりに努める。	③ 清掃活動時間の充実を図るとともに、ボランティア活動を推奨する。	③ 「清掃活動に進んで取り組んだ」生徒:85%以上
情報教育	① タブレット端末やスマートフォンなど、通信機器に慣れ親しんでいる生徒は多いが、情報モラルを守って、適切に利用できていない生徒も多い。	① 情報モラルを守って、適切に通信機器を活用することができる生徒の割合を増やす。	① 携帯電話安全教室等の講習を行う。 ① すべての教科の授業において、情報モラルについて考える機会をつくる。	① 「情報モラルを守り、通信機器を適切に活用できている」生徒:85%
	② 自分の考えを深めることが難しい生徒が多い。	② タブレット端末を活用し、自分の考えを深めることができる生徒の割合を増やす。	② 必要に応じて、授業でタブレット端末を活用し、他の意見を聞いたり、考えを深めたりする機会を増やしていく。	② 「タブレット端末を活用し、考えを深めることができた」生徒:80%